

大気汚染防止法

ばい煙発生施設

設置（使用、変更）届出書 記載例

－ 設置届（使用届） 編 －

【注意】

- ・ 本記載例は、記載方法の一例を示したものです。
施設の仕様等によっては、記載事項の修正を求める場合があります。
- ・ 実際に届出をする際は、事前に御相談ください。
- ・ 提出部数は、正副2部となります。
- ・ 届出が受理された日から60日を経過した後でなければ、設置のための行為（工事着手等）ができません。提出期日に御注意ください。
- ・ 手続きが遅延した場合、「遅延理由書」等を添付していただく場合があります。

※本記載例は、ばい煙発生施設の設置届（または使用届）に関する一例です。

※使用届について

既に設置済の施設が、法改正によって新たにばい煙発生施設になった場合は設置届ではなく、使用届として届出を提出します。

平塚市 環境部 環境保全課
(最終更新：令和6年12月)

ばい煙発生施設設置~~(使用、変更)~~届出書

令和〇年 〇月 〇日

平塚市長 殿

住 所 神奈川県平塚市〇〇町 1-1

届出者 名称及び 〇〇工業株式会社
代表者氏名 代表取締役 〇〇 〇〇

電話番号 XXXX-XX-XXXX

大気汚染防止法第 6 条第 1 項~~(第 7 条第 1 項、第 8 条第 1 項)~~の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

④	工 場 又 は 事業場の名称	〇〇工業株式会社 平塚工場	※整 理 番 号	
⑤	工 場 又 は 事業場の所在地	平塚市〇〇町×-×	※受理年月日	年 月 日
⑥	ば い 煙 発 生 施 設 の 種 類	1. ボイラー (1 台) 11. 乾燥炉 (1 台)	※施 設 番 号	
	ば い 煙 発 生 施 設 の 構 造	別紙 1 のとおり。	※審 査 結 果	
	ばい煙発生施設 の使用の方法	別紙 2 のとおり。	※備 考	
	ば い 煙 の 処 理 の 方 法	別紙 3 のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第 1 に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

記載の流れ（様式第1）

① 届出の名称、根拠条文等の選択

届け出る内容に該当しない字句は、削除せず二重取消線で抹消します。

・ 設置・使用・変更と条項の対応

--- 設置：第6条第1項、 使用：第7条第1項、 変更：第8条第1項

② 届出日

市に提出し、正式に受理された日の日付を記載します。

内容に不備がある場合には受理できない可能性がありますので、
空欄のまま窓口に持参しても問題ありません。

③ 届出者情報

氏名、住所及び電話番号を記載します。

法人にあっては、工場又は事業場の管理責任を負う代表者（代表取締役や工場長など）が所属する住所、社名及び代表者の職氏名を記載します。

④ 工場又は事業場の名称

届出施設を設置している工場又は事業場の名称を記載します。

⑤ 工場又は事業場の所在地

届出施設を設置している工場又は事業場の所在地を記載します。

地番から住居表示に改めた場合も含め、前回の届出内容から変更がある場合には、こちらの届出の前に、所在地変更に関する「氏名等変更届」の提出が必要です。

⑥ ばい煙発生施設の種類及び台数

今回届出するばい煙発生施設について、大気汚染防止法施行令別表第一に掲げる項番号・施設名称とその台数を記載します。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		ボイラー1号機	No.1 乾燥炉	①
名 称 及 び 型 式		〇〇(株)製 小型貫流ボイラー XX-0000-ZZ	〇〇(株)製 リサイクルプラント Y-000N	②
設 置 年 月 日		年 月 日	年 月 日	③
着 手 予 定 年 月 日		令和〇年 〇月 〇日	令和〇年 〇月 〇日	
使 用 開 始 予 定 年 月 日		令和〇年 〇月 〇日	令和〇年 〇月 〇日	
規 模	伝 熱 面 積 (m ²)	15.0		④
	燃 料 の 燃 焼 能 力 (重油換算 l/h)	70.0	500	
	原 料 の 処 理 能 力 (t/h)		50.0	
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)			
	変 圧 器 の 定 格 容 量 (KVA)		-(変圧器使用なし)	
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)			
	焼 却 能 力 (kg/h)			
	乾 燥 施 設 の 容 量 (m ³)			
	電 流 容 量 (KA)			
	ポ ン プ の 動 力 (KW)			
合 成 ・ 漂 白 ・ 濃 縮 能 力 (kg/h)				

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- ⑤ 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

記載の流れ（別紙１）

※今回は、ばい煙発生施設を２台設置する場合の例です。

※３台以上の届出で列が不足する場合は、複数枚に分けて作成します。

① 施設番号（施設名称）

工場又は事業場で用いている施設の名称を記載します。

複数の施設で名前の重複が起こらないように注意してください。

② 名称及び型式

具体的な装置の名称・型番、製造会社名等を記載します。

③ 設置年月日等

新設の場合は、設置年月日は記載不要です。

工事着手予定年月日、工事完成予定年月日、使用開始予定年月日を記載します。

【手続遅延の場合の注意】３か所の「予定」の字句を二重取消線で抹消します。

④ 規模

備考２の説明に従い、届出するばい煙発生施設の規模要件に関する項目について記載します。

◆規模要件の例（大気汚染防止法施行令別表第一より一部抜粋）

・ 1. ボイラー

伝熱面積が 10m^2 以上であるか、

又はバーナーの燃料の燃焼能力が重油換算 50L/h 以上であること

⇒伝熱面積、燃料の燃焼能力の欄に、施設の情報を記載する。

・ 11. 乾燥炉（14の項及び23の項に掲げる者を除く）

火格子面積が 1m^2 以上であるか、

バーナーの燃料の燃焼能力が重油換算 50L/h 以上であるか、

又は変圧器の定格容量が 200KVA 以上であること

⇒火格子面積、燃料の燃焼能力、変圧器の定格容量の欄に、施設の情報を記載する。

⑤ 構造図

ばい煙発生施設の構造図を添付します。構造図には、主要寸法等を記載します。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		ボイラー1号機		No.1 乾燥炉	
使用状況	1日の使用時間及び 月使用日数等	8時～ 17時 9時間/回 1回/日 20日/月		8時～ 17時 8時間/回 1回/日 20日/月	
	季節変動	10月～3月（暖房のみ）		なし	
原材料 （ばい煙の発生に 影響のあるものに 限る。）	種類			再生骨材、碎石	
	使用割合			再生骨材:70%、碎石:30% （重量比）	
	原材料中の成分割合（%）	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 0.0 カドミウム分 0.0	鉛分 0.0 弗素分 0.0
	1日の使用量			400t/日（50t/h * 8h/日）	
燃料 又は 電力	種類	灯油		特A重油	
	燃料中の成分割合（%）	いおう分 0.005		いおう分 0.085	
		灰分 0.00		灰分 0.00	
		窒素分 0.01		窒素分 0.03	
	発熱量	36.5MJ/L		45.5MJ/L	
	通常の使用量	35.0L/h（70.0L/h*50%）		400L/h（500L/h*80%）	
排出ガス量（Nm ³ /h）	湿り	最大 1500.0 通常 750.0		最大 21000 通常 16800	
	乾き	最大 1400.0 通常 700.0		最大 18000 通常 14400	
排出ガス温度（℃）		130		200	
排出ガス中の酸素濃度（%）		4.5		15	
ばい煙の 濃度	ばいじん（g/Nm ³ ）	最大 0.10 通常 0.05		最大 0.30 通常 0.10 未満	
	いおう酸化物（容量比 ppm）	最大 0.20 通常 0.20		最大 20 通常 18	
	カドミウム及びその化合物（mg/Nm ³ ）	最大 通常		最大 通常	
	塩素（mg/Nm ³ ）	最大 通常		最大 通常	
	塩化水素（mg/Nm ³ ）	最大 通常		最大 通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素（mg/Nm ³ ）	最大 通常		最大 通常	
	鉛及びその化合物（mg/Nm ³ ）	最大 通常		最大 通常	
	窒素酸化物（容量比 ppm）	最大 30 通常 30		最大 60 通常 50	
ばい煙量	いおう酸化物（Nm ³ /h）	最大 0.0001 通常 0.0001		最大 0.25 通常 0.20	
参考事項		ばい煙濃度はすべて 5%換算値		ばい煙濃度はすべて 5%換算値	

- 備考 1 原材料中の成分割合（%）の欄及び燃料中の成分割合（%）の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常時において用いられるものをいう。）の別を明らかにすること。

記載の流れ（別紙２）

① 使用状況

施設を使用する時間帯や、季節による使用状況の変動を記載します。

② 原材料（ばい煙の発生に影響のあるものに限る。）

燃料以外で、施設に原材料として投入し、ばい煙を発生させるものについて、その種類や成分、一日当たりの使用量などを記載します。

種類や成分の情報が欄内に収まらない場合は、「別表〇のとおり」等の記載をした上で、別表を添付することにより説明しても問題ありません。

③ 燃料又は電力

施設で使用する燃料又は電力について、種類や成分、通常の使用量などを記載します。

燃料の場合は、燃料の成分表を添付し、記載した値の根拠資料とします。

④ 排出ガスの量、温度、濃度

施設から排出されるガスについて、その予測値を記載します。

予測値の根拠となる計算資料や、メーカーの保証書等を添付します。

・ 排出ガス量

湿り時、乾き時の量をそれぞれ通常時と最大時に分けて記載します。

・ ばい煙の濃度

乾きガス中の濃度として記載します。特にばいじん、窒素酸化物、塩化水素は、標準酸素濃度に換算して記載します

また、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度を記載します。

⑤ 参考事項

ばい煙の濃度に関して、濃度換算している場合はその説明を記載します。

その他、非常用の施設として設置し、通常時には使用しないなど、言及が必要な内容があれば記載します。

※「通常時」・「最大時」の考え方について

施設を使用する際、常時定格出力での運転（10割運転）を行うことは稀であり、一般的には、いくらか出力を抑えて使用する場合がほとんどです。

届出書の記載においては、「定格出力での運転（10割運転）」を最大時、「平時の出力を抑えた状態での運転」を通常時として、予測値を記載します。

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号			煙突	乾燥炉用フィルター	①	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号			ボイラー1号機	No.1 乾燥炉	②	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式			煙突	(株)〇〇社製 バグフィルター	③	
設置年月日			年 月 日	年 月 日		
着手予定年月日			令和〇年 〇月 〇日	令和〇年 〇月 〇日		
使用開始予定年月日			令和〇年 〇月 〇日	令和〇年 〇月 〇日		
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大		21000	④	
		通常		16800		
	排出ガス温度 (°C)	処理前		230		
		処理後		200		
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	処理前			30
			処理後			0.30
		いおう酸化物 (容量比 ppm)	処理前			20
			処理後			
		カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
		塩素 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
		塩化水素 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
		弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	処理前			
			処理後			
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前				
		処理後				
	窒素酸化物 (容量比 ppm)	処理前		60		
		処理後				
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大	処理前	0.25		
		通常	処理後			
		通常	処理前	0.20		
		通常	処理後			
捕集効率 (%)	ばいじん			99.0		
	いおう酸化物					
	カドミウム及びその化合物					
	塩素					
	塩化水素					
	弗素、弗化水素及び弗化珪素					
	鉛及びその化合物					
	窒素酸化物					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		8時～ 17時 9時間/回 1回/日 20日/月	8時～ 17時 8時間/回 1回/日 20日/月	⑤	
	季節変動		10月～3月(暖房のみ)	なし		
排出口の実高さ H _o (m)			20.0 * Φ1.0 (陣笠無)	25.0 * Φ2.0 (陣笠有)	⑥	
補正された排出口の高さ H _e (m)			20.521	25.0		
排出速度 (m/s)			0.44	6.15		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さ H_e は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

記載の流れ（別紙３）

① ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号

ばい煙をばい煙処理施設で処理している場合は、工場又は事業場で用いている処理施設の名称を記載します。

ばい煙処理施設が存在しない場合は、煙突の煙突の情報を記載します。

ばい煙処理施設の構造図や排出口の構造図等を添付します。

② 処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号

ばい煙処理施設が、どのばい煙発生施設に接続しているかを記載します。

③ ばい煙処理施設の名称及び型式

ばい煙処理施設の具体的な装置の名称・型番、製造会社名等を記載します。

煙突の場合は、「煙突」と記載します。

④ 処理能力

ばい煙処理施設がない場合（煙突の場合を含む）は記載不要です。

ばい煙処理施設の処理能力について記載します。

・排出ガス量

湿り排ガス量の値で記載します。

・排出ガス温度、ばい煙の濃度

ばい煙処理施設で処理する成分については、「処理前」、「処理後」欄にそれぞれ予測値を記載します。

ばい煙処理施設で処理しない成分については、「処理前」欄のみ記載し、「処理後」欄は空欄とします。

それぞれ別紙２で記載した値と一致するか確認します。

・捕集効率

ばい煙処理施設で処理する成分について、カタログ値や、「ばい煙の濃度」の処理前、処理後の値から計算した捕集効率を記載します。

⑤ 排出口の実高さ

排出口の地面（G L）からの実高さ、面積、陣笠の有無を記載します。

構造図や配置図等で高さが確認できるよう図示します。

⑥ 補正された排出口の高さ、排出速度

拡散計算書で計算した数値を記載します。

※神奈川県HPで公開されている拡散計算書の利用を推奨しています。

添付書類一覧

内容		添付番号
1	事業所案内図	添付○
2	ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の設置場所	添付○ ①
3	ばい煙発生施設に係る資料 (配置図、平面図、立面図、構造図、仕様書、カタログ等)	添付○ ②
4	ばい煙処理施設に係る資料 (配置図、平面図、立面図、構造図、仕様書、カタログ等)	添付○ ③
5	煙道図及び排出ガスの測定場所	添付○ ④
6	ばい煙発生施設及びばい煙処理施設に係る操業の系統の概要	添付○ ⑤
7	拡散計算書	添付○ ⑥
8	緊急連絡用の電話番号及び緊急時における連絡体制	添付○ ⑦
9	ばい煙に関する根拠資料 (燃料成分表、予測値計算結果)	添付○ ⑧

参考事項 ⑨

資本金	円	従業員数	
主要製品		操業時間	時 ～ 時
用途地域		敷地面積	m ²
		建物面積	m ²
受理書送付先	住所	〒	
	名称		
	部署・担当者名		
	電話番号		
届出担当者・連絡先等（上記「受理書送付先」の内容と異なる場合のみ記載）			
他法令等による許可・届出の状況	神奈川県生活環境の保全等に関する条例	不要・未了・完了	
	水質汚濁防止法	不要・未了・完了	
	騒音規制法	不要・未了・完了	

記載の流れ（添付書類一覧）

① ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の設置場所

ばい煙発生施設、ばい煙処理施設の位置が分かる平面図（配置図）を添付します。配置図には、方位を記載します

② ばい煙発生施設に係る資料

ばい煙発生施設の構造図、カタログ等を添付します。
構造図には、主要寸法を記載します。

③ ばい煙処理施設に係る資料

ばい煙処理施設の配置図、構造図等を添付します。
配置図は、ばい煙発生施設の配置図とまとめても問題ありません。
※煙突のみの場合は、この欄には記載不要です。

④ 煙道図及び排出ガスの測定場所

ばい煙発生施設から排出口までの、排ガスの経路（ダクト等）を示した図と、排出口の断面積、地面（G L）からの実高さが分かる図を添付します。
さらに、排出ガスの測定口の位置、内径を示した図を添付します。ばい煙発生施設の構造図とまとめても問題ありません。

⑤ ばい煙発生施設及びばい煙処理施設に係る操業の系統の概要

事業所の操業の系統のうち、対象の施設が関係する一系統について、操業の系統図（フローチャート等）を添付して示します。

⑥ 拡散計算書

拡散計算書で計算した数値を記載します。
※神奈川県HPで公開されている拡散計算書の利用を推奨しています。

⑦ 緊急連絡用の電話番号及び緊急時における連絡体制

事故等が発生した際の連絡体制について、連絡網等を添付します。
※部署名等で記載し、個人名や個人の連絡先等は削除してください。

⑧ ばい煙に関する根拠資料（燃料成分表、予測値計算結果）

別紙2、3で記載した数値の根拠となる資料を添付します。

⑨ 参考事項

工場又は事業場に関する概要を記載します。

拡 散 計 算 書

工場名 _____ 所在地 _____

施設名 _____ (工場内の施設記号 _____)

1 施設能力 (設備能力)

燃料使用量	(l/h)	二酸化硫黄 (SO ₂) 排出量 【q ₂ 】 q ₂ =燃料使用量 (l/h) × $\frac{\text{硫黄分 (\%)}}{100}$ × 0.7 × 0.9 = (Nm ³ /h)
燃料中の硫黄分	(%)	
最大湿り排出排ガス量 【Q'】	(Nm ³ /h)	
排出ガス温度【T】(=273+ °C)	(K)	温度 15°Cにおける排出ガス量 【Q】 Q= $\frac{Q'}{3600} \times \frac{288}{273}$ = (m ³ /s)
排ガス速度【V】	(m/s)	
実煙突高【Ho】	(m)	
陣笠	有 ・ 無	

2 有効煙突高【He】

$He = Ho + 0.65 (Hm + Ht)$

※陣笠有りの場合 He=Ho

$\left(\begin{array}{l} Hm : \text{排ガス速度による煙の上昇高さ (m)} \\ Ht : \text{排ガス温度による煙の上昇高さ (m)} \end{array} \right)$

(1) Hm の計算

$Hm = \frac{0.795\sqrt{QV}}{1 + \frac{2.58}{V}} = \left(\sqrt{QV} = \right)$

(2) Ht の計算

$Ht = 2.01 \times 10^{-3} \cdot Q \cdot (T - 288) \cdot \left(2.3 \log J + \frac{1}{J} - 1 \right) =$
 $\left(\begin{array}{l} J = \frac{1}{\sqrt{QV}} \left(1460 - 296 \times \frac{V}{T - 288} \right) + 1 = \\ 2.3 \log J + \frac{1}{J} - 1 = \end{array} \right)$

(3) He の計算

$He = Ho + 0.65 (Hm + Ht) =$

$He^2 =$

3 硫黄酸化物の排出基準【q】 ※ q₂ ≤ q でなければならない。

(q は、0°C 1 気圧の状態に換算した 1 時間当たりの排出量の基準)

$q(Nm^3/h) = K \times 10^{-3} He^2 = \frac{11.5 \times He^2}{1000} =$

< 参考 >

SO₂ 着地濃度 (1 時間の着地濃度・C_{1h} の基準)

$C_{\max}(ppm) = \frac{11.41 \times q^2}{He^2} =$
 $C_{1h}(ppm) = C_{\max} \times 0.15 =$
 $\left(\begin{array}{l} C_{\max} : 3 \text{ 分間着地濃度} \\ C_{1h} : 1 \text{ 時間着地濃度} \end{array} \right)$

拡散計算書について

排煙の排出速度等の計算根拠として、拡散計算書を添付します。

煙突が、複数のばい煙発生施設からの排煙を受け入れる集合煙突である場合でも、ばい煙発生施設 1 台ごとに計算してください。

（施設 1 台ごとに排出規制がかかるため。）

本記載例にて掲載している様式か、神奈川県 H P で公開されている拡散計算書を利用し、記載された計算式に沿って計算を行います。

※Excel形式で自動計算機能があるため、神奈川県 H P で公開されている拡散計算書の利用を推奨しています。